



積み重ねが実を結ぶ

「山家集より」 佐藤 美子(室戸市)

書道



家に基礎を教えてもらった後、実用的な書をと地元の書家から仮名を学んだ。

「うまく書けなかったら同じ所を何日も書きまします。書けた時のうれしさは最高で、その積み重ねが一つの作品になっていきます」

西行法師の「山家集」の7首をちりばめた作品。最初は自分が好きな料紙に書いた。ところが最後の余白が狭かった。そこで青色の料紙を使ったが、今度は紙の質が違うので普段の墨では筆の乗りが悪い。このため墨も工夫したという。

書を始めたのは3人の娘を大学に出した40歳を過ぎてから。従兄弟の書

「書く時は正座です。この作品は1時間半ほどかかりました。制作中に足が痛くなったら書けなくなるので、朝はラジオ体操、夕方にはウォーキングを日課に体調を整えています」(池添 正)

さとう・よしこ 1941年生まれ。褒状1回。初特選。